

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年8月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1192300018
法人名	有限会社 福寿
事業所名	グループホーム わこうの丘
所在地	〒351-0111 埼玉県和光市下新倉3-7-7 (電話) 048-451-0157

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65
訪問調査日	平成20年8月28日

【情報提供票より】(平成20年1月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 5人, 非常勤 7人, 常勤換算 7.3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての1階～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	22,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(360,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日あたり 1,820円				

(4) 利用者の概要(1月7日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2		3 名	
要介護3	2 名	要介護4		1 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 86 歳	最低 76 歳		最高 97 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	和光病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、緑に囲まれた自然豊かな広大な敷地に、贅沢な造りの小規模多機能型居宅介護事業所に併設した1ユニットのグループホームである。老いた時の暮らしをイメージして平成13年1月にグループハウス(宅老所)を発足させ、平成19年5月にグループホームを開設した。居室は広く、トイレを設けて家族が訪問しやすくしており、泊まることもできる。地域との密着に努め、今年の納涼祭は、子供たちや近隣の人たちが120～130名も集まり盛大に行われた。利用者の表情は明るく、お互いに助け合い、職員と楽しそうに生活している。また、脳の活性化を図る観点からもいろいろな工夫が見られる。職員のチームワークが良く、活発に意見交換がなされており、管理者と職員が共に介護力の向上に努めたいとの意欲がある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回が初めての外部評価であるため非該当。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価については管理者2名で作成しており、作成段階から職員全員で取り組むことは出来なかった。また、出来上がった自己評価の全職員による確認には至っていない。なお、今回の外部評価の結果については会議で話し合う予定である。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2か月に1回開催されている。会議のメンバーは、市職員、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、グループホームの職員で構成され、活発に意見を出し合い有意義に行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会が多く、面会時には職員から家族に話しかけて意見を聞くよう努めている。また、電話連絡も頻繁にとりあい、家族との連携を密にしている。出された意見については朝礼で話し合い対応するとともに、運営推進会議で家族の参加を促し、意見の反映に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会、老人会に加入している。地域の行事に積極的に参加するとともに、ホームの行事に地域の人達を招待し、大勢の方の参加を得ている。散歩時には挨拶を交わし、近隣の人達と顔見知りの輪が広がっている。老人会の行事には施設にある多機能ホールを使ってもらい、利用者も参加して交流を図っている。また、地域の中学生や高校生が体験ボランティアに来ている。なお、災害時に備え、近隣の人達の応援体制が出来ている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は「その人がその人らしく生活できるようにその人に合わせた丁寧なケアをお届けします。その人が安心して生活出来るようにわこうの丘はお手伝いします。」であり、これを実践するためにモットー、スローガン、信条を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関と多機能ホールに掲示している。また、職員は朝礼で毎日理念を確認し合い、共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会に加入し、地域の行事に積極的に参加している。また、ホームの行事にも地域の人達の参加がある。散歩時には挨拶し、顔見知りの輪が広がっており、ボランティアの参加もある。敷地内にある多目的ホールで老人会の行事が行われ、利用者も参加して交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての外部評価である。自己評価については管理者二人で作成し、全職員に徹底はされていない。外部評価の結果は会議で話し合いをする予定である。		自己評価を作成する際、気が付いたとき記入できるように工夫したり、分担したりすることで、全職員が携わることが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1回、市の職員、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、ホーム職員の参加を得て開催されている。会議では、活発に意見が出され有意義に話し合いが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所連絡協議会に参加し、積極的に市の担当職員と連携を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会が多く、面会時には職員から家族に話しかけて状況を報告するとともに、電話連絡も頻繁にとっている。また、会計報告や「わこうの丘便り」と一緒に利用者の近況を一筆書いて定期的に家族に送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族の意見や希望を聞くよう努め、出された意見については朝礼で話し合い対応している。運営推進会議を開催する際は、家族にも参加を呼びかけ出席してもらい、意見の反映に努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職、異動は今のところない。わこうの丘便りで職員については紹介しており、できるだけ継続した支援を続けることで馴染みの関係を築きながら支援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画はないが外部の研修に多く参加している。参加者は全体会議で発表し、記録することで全職員が周知できるようになっている。また、毎月1回会議の中で内部研修を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと行っている研修交流や実習における交流を通じて、同業者とのネットワークをつくり、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を開始する際は体験入居をしてもらっている。また、併設の小規模多機能型居宅介護事業所から入居することもある。入居を拒まれる利用者に対しては話し合いをし、家族と相談しながらゆっくり馴染めるように進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者とは、人間として生き方を教えてもらう姿勢で接しながら支えあう関係を築き、お互い助け合いながら楽しく生活している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食後ゆっくり利用者とし話し合う時間を作り、じっくり話を聞くよう努めている。また、利用者の行動や表情から希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の話を聞いて、入居時の資料やアセスメントシート、職員の意見等を参考にして介護計画を作成している。出来上がった介護計画は家族に説明している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングシートを月に1回、職員に意見を聞いて作成し、それを参考にして、6か月に1回見直しをしている。状態に変化があるときは随時行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診支援や外泊支援など状況に応じて柔軟に対応している。また、併設のデイサービスとの連携も行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医の受診を支援している。緊急時の対応も協力医療機関や主治医と連携を取り、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までにグループホームで、看取りを一人行った。本人、家族、主治医、職員で話し合いをしながら方針を共有するように努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書にプライバシー確保の記載がある。また、日々の介護で丁寧な接し方や言葉遣いに留意し、利用者一人ひとりのプライバシーを損ねることのないようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、手紙の交換、料理、掃除、アイロンかけ、菜園など利用者のペースを大切にしながら本人が出来る事を支援し、絵画や塗り絵など趣味においても利用者自身のペースで楽しめるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は個々の力を活かし、食事作りから後片付けまで楽しみながら職員と一緒に歩いており、食事をする際も職員と一緒に食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ヒノキ風呂で、週2回入浴をしている。職員は利用者が自分のペースで入ることができるように支援し、希望に応じて夜間の入浴も対応可能である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は料理を手伝ったり、掃除、縫い物、洗濯、花を生けるなどしながら生活している。利用者の中には、絵を書く方、俳句を作る方、手紙を書く方などもあり、本人の生活歴や力を活かしながら楽しみごとの支援をしている。また、地域との交流も図りながら張り合いのある生活になるように努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、お茶のみや体操、外食、古民家などへの外出、自治会や老人会の行事への参加等の支援をしている。坂戸で行われた高校総体のハンドボールの応援にも行ったこともあり、できるだけ戸外に出かけられるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。利用者の見守りを充分に行い、外出傾向のある方には特に注意して安全確保に努めながら鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防隊の協力を得て地域の自治会と一緒に避難訓練、防火訓練を年2回実施している。マニュアルも作成されており、地域の人達や分団の消防団員とチームを作り応援体制が出来ている。火災通報装置、火災報知機、消火器、非常出口誘導灯、煙探知機を設置している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	購入してきた食材を参考にして、管理者が献立を立てている。食事や水分の摂取量は記録されており、食べられないときは形態の工夫をし、家族や主治医に相談しながら対応している。体重測定は月に2回行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりがよく、ゆったり出来る雰囲気である。絵画や書及び利用者の作品を飾り、季節感を採り入れながら落ち着いた居心地良く過ごせる工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はスペースが広く、各部屋にトイレが設置され、落ち着いた雰囲気である。仏壇や、箆笥、テーブル、椅子などが置かれ居心地良く過ごせるようになっている。家族も泊まることある。		